

「唐代宦官家族とその埋葬地について」

札幌大学文化学系・高瀬奈津子

唐後半期において、宦官は、皇帝の廃立に関与するなど、政治の動向を左右するほどの権力を握った。そのため、唐後半期における宦官の権力伸長に関して、すでに多くの先行研究がある。唐代の宦官が権力を獲得した後、それを長期にわたって維持できた要因として養子の存在がある。すなわち、宦官が権勢を獲得し、それを維持できた要因の一つとして、宦官が宦官を養子とすることによる家系の存続によって、宦官身分の形成と自覚、統一的、身分的勢力の団結がなされてきたことが挙げられる。

近年、中国で唐代宦官の墓誌銘が西安を中心に数多く発見されたことにより、墓誌史料を利用した研究が蓄積されつつある。特に墓誌には宦官の家族に関する情報も記されており、宦官の妻や養女に関するものが多い。そのことから、王寿南氏は、宦官が妻を娶ること、とりわけ宦官の養女を他の宦官が妻とすることで、宦官が相互に強く結びつき、長く勢力を維持できる要因とする。さらに、宦官の墓誌だけでなく、宦官の妻を誌主とする墓誌が発見されると、そこには妻の実家や妻自身の事績もあり、宦官の妻や娘の具体的な事も分かってきた。こうした墓誌史料を用いて、杜文玉氏は、妻や養女を通じて有力宦官の家族同士が結びつき、通婚関係によって政治的な関係も強化されていったことを明らかにした。

ところで、墓誌には、養子や婚姻関係といった宦官の家族関係だけでなく、死後の埋葬地についても記述がある。その中には、死後に代々が埋葬されている場所に葬られたことを明記したものもある。そこで、本報告では、宦官の墓誌銘などに記された埋葬地から宦官の家族関係を考察し、宦官の身分的勢力の団結について検討したい。